

# 新自由主義的政策は転換し、 やさしく力強い神戸経済へ

2月25日に神戸市会本会議がひらかれ、日本共産党神戸市議団の味口としゆき議員と林まさひと議員が登壇し代表質疑をおこないました。

- 質疑項目**
1. やさしく強い神戸経済への転換について
  2. 王子公園・動物園の再整備について
  3. 神戸市の脱炭素対策について

新型コロナウイルスの急拡大で、市民の暮らしと営業は深刻です。新型コロナから命と暮らしを守ることは、今議会の最優先の課題です。しかし予算案は、都心・三宮の再整備に178億円、大阪湾岸道西伸事業に42億円、国際コンテナ戦略港湾に107億円などコロナ以前の大型開発を強行するものとなっています。大

型開発と呼び込み偏重では「力強い神戸経済を創る」どころか、10年連続の人口減少にみられるように、足腰の弱い神戸となっています。味口議員は、大型開発をすすめ「民間事業者の活動が思う存分に展開できればよい」という新自由主義的政策の転換を求めました。

## 味口議員が 代表質疑



義的政策を続けている。岸田総理は新自由主義的政策からの転換の必要性を訴えているが、市長には自覚がないのか。

**久元市長：**民間事業者の発想や知恵を導入しようとするもの。皆さんの賛同をいただいている。

**味口議員：**行政の施設を民間に明け渡して儲けさせる。一方では限られた予算ということで様々な市民サービスを削減する。これこそが新自由主義だ。経済も人口減少の問題も前にすすんでいないという認識はないのか。

**久元市長：**人口減少は全国的トレンドだ。三宮に集中投資をしているという指摘は全

く当たらない。

**味口議員：**人口減少や国の成長が止まっていることは自然現象ではない。岸田総理は新自由主義打開の展望は全く示していないが、市長が自覚も見識もないのでは、持続的な神戸の発展はない。

**久元市長：**私は岸田総理の考え方に違和感はない。国の動向を注視したい。

**味口議員：**国の動向を注視するだけではなく、今後の神戸の持続的な経済の発展を見据えて、新自由主義的な施策とは何であるのか、そして自分の施策がどう表れているのかしっかり分析し、転換すべきだ。

## 答弁ダイジェスト

**久元市長：**新自由主義を標榜も称揚したこともない。新自由主義というレッテル貼りに強い違和感と恐ろしさを感じる。

**味口議員：**自覚も反省もないことが逆に恐ろしい。市長が国の官僚時代に指定管理者制度をつくり、市長になってからも三宮再開発など、すべてを民間に委ねるとい新自由主

## 王子公園再整備計画

# 廃止・削減ありきでなく、市民や 利用者の声に寄りそった再整備を!

「王子公園再整備基本方針(素案)」には、市民から1456通(5632件)、市外の方からも892通の意見が寄せられました。「わたしから神戸市への提案」にも1026通の意見が寄せられています。久元市長も認めたように、圧倒的多数は再整備方針に異議を訴えるものでした。これだけの意見が寄せられているのに、

神戸市は「大学誘致の必要性について、丁寧に説明をしたい」などと、考え方を一切変えようとしていません。味口議員は、大学誘致ありきで市民が大切にしてきた遊園地やプール、テニスコート、サブグラウンドを廃止する計画は許されないと質しました。

## 答弁ダイジェスト

**今西副市長：**大学誘致の目的について十分な理解を求め、廃止せざるを得ない施設は代替性や他の機能での補完を検討したい。

**味口議員：**代替性や機能の補完という考えは、廃止・縮小という考えを全く変えないもの。公共施設は市長のものなのか。

**久元市長：**公共施設は市民のものだが、設置・管理は神戸市の仕事だ。唐突ではなく選挙公約にも、王子公園の再整備を掲げている。

**味口議員：**老朽化は設置管理者である神戸市が手立てを

打ってこなかったからだ。選挙公約には廃止について一言もない。市民の声を聞かず、市長の思惑を優先させるのか。まさに市長の民主主義の感覚が問われる。

**久元市長：**何のために議員をやっているのか。市民意見募集で自動的にものが決まることが民主主義とは思わない。最終的に議会で議論し決定する。これが民主主義だ。

**味口議員：**何のために市長をしているのか。予算編成の権利は市長にしかない。この王子動物園を当初の大学誘致ありきですすめるのは独善だ。

# 脱炭素に真剣に臨むなら石炭火力発電所稼働はやめよと神鋼に迫れ!!

神戸製鋼所（神鋼）は、灘区で新設石炭火力発電所3号機の営業運転を開始しました。3号機によって、年間346万トンのCO<sub>2</sub>の排出増加が見込まれます。COP26では、気温上昇を1.5℃に抑える努力目標追求の決意を確認し、2030年までを「勝負の10年」として気候変動対策を呼びかけました。そのために、

石炭火力をフェーズダウン（漸減）することが決議されました。今回の営業運転は、脱炭素社会の実現に大きく逆行します。味口議員は、市長が「地球温暖化対策には強い決意をもって取り組む」としたのなら、石炭火力発電所稼働はやめよと神鋼に求めるべきと、市長の決意を求めました。

## 答弁ダイジェスト

**今西副市長：**3号機は最新鋭の発電技術を導入した石炭火力発電だ。神鋼にはさらに厳しい汚染物質の協定値を設定し、アンモニア混焼率拡大や専焼が実現されるよう働きかけ、2050年のカーボンニュートラルの実現を目指したい。

**味口議員：**アンモニア混焼は、日本が化石賞を受賞した理由だ。再生エネルギー事業や、技術を尽くしてもっと未来が見える事業へ転換するべ

きと神鋼に求めるべきだ。

**今西副市長：**神鋼が再生可能エネルギーに取り組むことは望ましいが、神戸には火力発電所があるから、今はアンモニア混焼を実現しCO<sub>2</sub>削減をすることが重要な取り組みだ。

**味口議員：**灘区にお住まいの方にとって公害問題に苦しめられてきた記憶の残影は切り捨てることはできない。強い決意と言いながら、神鋼に何もものを言わないという姿勢は改めるべきだ。

# これまで 神戸経済支えてきた中小業者に手厚い直接支援を

## 質疑項目

1. コロナ禍で苦しむ中小業者への支援について
2. 保健所体制の本格的拡充について

神戸市は、2年以上にわたるコロナ禍で苦しむ中小業者への支援について、「国には充実した支援策がある」という答弁に終始しています。しかし、国・県による既存支援策を利用しては、多くの中小業者が経営困難に直面しているのが実態です。林議員は

「コロナで売上げが減った。家族の介護費用などで、手元の10万円で家族4人生活しなければならない」などの事業者の苦悩の声を紹介。中小業者等が、これ以上廃業や倒産に追い込まれないように、市独自のさらなる支援策を講じるべきと迫りました。

## 林議員が代表質疑



態を把握もせず神戸市が支援をやめてしまうのはおかしい。

**今西副市長：**これまでも市内事業者の実態把握もすすめてきた。引き続き国・県の支援制度、相談窓口の案内もしながら必要に応じて市の制度の拡充も検討していく。

**林議員：**申請するのに非常

にハードルが高いことを市長が認めるなら、もっと気軽に借りられて事業が継続できる支援制度を神戸市がつくるべきだ。同時に国民健康保険料や介護保険料、税金などの負担も非常に大きくなっている。中小業者に対する減税・減額や減免・猶予など手厚い施策を講じるべきだ。

## 答弁ダイジェスト

**久元市長：**直接的支援はこれまで国や県に先行して実施してきた。申請のハードルが高いが、今は国の支援が充実しているので、それが確実に

行き渡るよう申請のサポートをすることが重要だ。

**林議員：**予算案は規模が小さく間接支援が中心で、これでは今苦境の中にある中小業者は救われない。事業者の実

# 保健所体制が不十分であったことを反省し、感染広がる今こそ抜本的強化を

日本共産党神戸市会議員団は、コロナ禍における保健所体制の強化について再三必要性を主張してきました。ところが久元市長は、保健所業務のデジタル化などによって効率化をはかるとし、抜本的な

体制強化や保健師の増員に背を向けてきました。林議員は、市民の命と健康を守るため、保健師の増員などによる抜本的な保健所体制の強化が必要だと質しました。

活用しながら市民の命と健康を守っていききたい。

**林議員：**フォローアップセンターのスタッフが民間事業者に委託されているが、本来感染症の仕事は保健所がおこなうものではないのか。

**小原副市長：**ご指摘の通りだが、代替がきくものは民間の力を借りながら対応していく。

**林議員：**民間事業者に委託せざるを得ない保健所体制になったのは神戸市の責任だ。市長は750人の職員削減計画を変えないとしているが、一

方で保健所業務は、職員では対応できず民間委託をしている。矛盾した施策だ。

**久元市長：**人口減少社会の中で限られた人員で行政課題に対応しなければならない。やめる・見直す・変えるという不断の努力が必要だ。保健所の体制はしっかり強化してきた。

**林議員：**これまでの対策が不十分だったために職員だけで対応できなくなった脆弱な保健所体制を反省し、今こそ保健師の増員など保健所体制の抜本的強化が必要だ。

## 答弁ダイジェスト

**小原副市長：**保健師増といった抜本的な体制強化やデジ

タル化による効率化をしたうえで、感染の波に応じて人材派遣・業務委託・職員応援を